

# 夏に帰る心

## '92終戦記念日

〈 5 〉

砂漠と石油の国・サウジアラビア。緑はほとんどない。首都リヤドは、そんな砂漠の中にいつ然と現れる。市街地は、高層ビルが続いていた。薬剤師奥田朗さん(66)

の製薬会社の現地進出に伴う事前調査だった。空襲警報。大阪府堺市で両親や兄弟と逃げまどいた。終戦時は十三歳。平和な社会が欲しい。それがあれば、ほかは何もない」と心に感じた。

「ほら。あそこあそこ。イラクからミサイルが飛んできた」。リヤドの街を自動車で走りながら、運転手が窓越しに指さした。ビルの一部が吹き飛ばされていた。そして空。日中の最高気温は四〇度を超えるが、どんよりと曇っている。油井火災の影響だと聞かされた。

### 海外から見詰めて

生事業団(事務局東京)の開発途上国派遣専門家。医療分野で日本がアジアに対して何を貢献できるのか。退戦後、ボラティアで調査活動を続けている。大戦中、日本軍が分かつていた。しかし、戦争責任はどつ償うのか。これが決定的に重要なのではないか」

一昨年八月、イラク軍のクウェート侵攻に端を発した湾岸戦争。昨年二月、戦争は終結したが、イラクと国境を接するサウジアラビアにも戦争の跡が残っていた。

# 重要な日本の役割

## 世界の平和にどう貢献

「日本は世界平和のために何ができるのか。自衛隊の海外派遣、国連平和維持活動(PKO)協力法なのか…。戦争責任はどつ償うのか。これが決定的に重要なのではないか」

山陽町桜が丘西七丁目。昨年七月末から約二十日間、新薬メーカーなどをつくる日本製薬工業協会(事務局東京)の国際協力専門家としてサウジアラビアを訪れた。同国から要請のあった日本

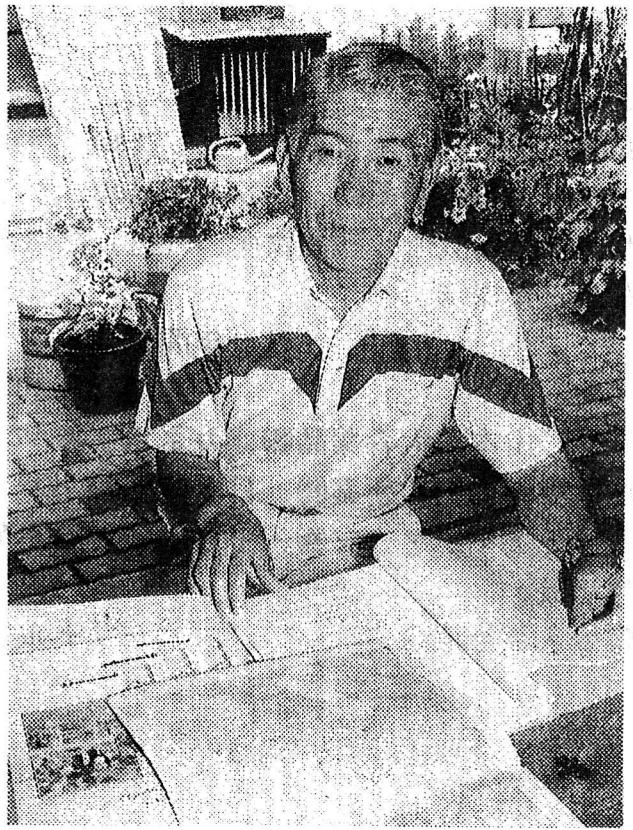
「改めて戦争の醜さ、悲惨さをみた」という。四十七年前の記憶がよみがえる。夜を染める焼夷(り)弾。鳴り続ける

農村部の公衆衛生、アの国々の多くは、今もなかでも、貧富の差の解消

医療状況を調査し続けている。大戦中、日本軍が分かつていた。しかし、戦争責任はどつ償うのか。これが決定的に重要なのではないか」

「平和の大切さはみんな分かつていた。しかし、戦争責任はどつ償うのか。これが決定的に重要なのではないか」

「日本は世界平和のために何ができるのか。自衛隊の海外派遣、国連平和維持活動(PKO)協力法なのか…。戦争責任はどつ償うのか。これが決定的に重要なのではないか」



日本はアジアに何ができるか。奥田さんの自問は続く